

管路とマンホール建設技術の変遷

Transition of conduit and manhole construction technologies

1965年 塗覆装鋼管の導入

1966年 硬質ビニル管の導入

1967年 分割ブロックマンホールの導入

1969年 ダクタイル鋳鉄管の導入

1971年 レジンコンクリート製ブロックマンホールの導入

2018年 テーパダイア型鉄蓋の導入

現場打ちコンクリートマンホール

関東大震災を契機として、煉瓦積マンホールを信頼性や経済性の高いコンクリートマンホールに置き換える作業が進められた。当初は現場打ちで築造されたため、コンクリートの硬化に時間がかかり、工期が長期化する傾向があった。



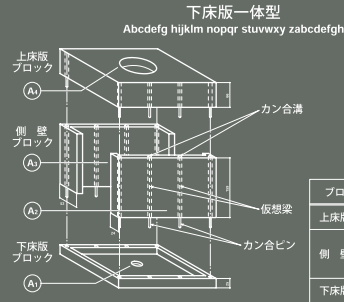
コンクリート現場打ちの様子



コンクリートマンホール設置の様子

分割ブロックマンホール

コンクリートマンホール築造の工期を短縮するために、プレキャスト製品の分割ブロックマンホールを1967年に導入した。分割ブロックマンホールの接合には当初モルタルが使用されたが、強度や水密性の点からエポキシ樹脂接着剤に変更された。



ブロック名称	ブロック番号	重量 (t)
上床版ブロック	(A ₄)	4.4
側壁ブロック	(A ₃)	2.5
	(A ₂)	2.2
下床版ブロック	(A ₁)	3.2

